

県立並木中等教育学校自己評価表

No. 1

目指す学校像	1 「つくば」とともに、「つくば」が持つ使命を共有した、次代の日本・世界の発展を担う「人間力」を備えた人材を育成する学校 2 生徒一人ひとりを大切にするとともに、地域から信頼され、生徒に力（「社会力」「学力」「体力」）と夢を提供する学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
高校入試のないゆとりある時間を活用した体験学習の充実により本校の特色である科学教育や国際教育を中心に、意欲ある学校風土が醸成されつつある。特に3年次生においては平和学習や国内の伝統芸能について学び、また4年次生においては5年次での卒業研究発表に向けた中間発表会を開くなど、充実した教育活動ができた。5年次生による研究発表も2回目となり、内容の充実が求められる年でもある。今後、より一層の教育活動の充実を図るために、右の重点項目のさらなる具現化を図っていく。	1 意欲ある学校風土の醸成	① 健やかな心と体の育成と人間力を培う教育の実践 ② 生徒の可能性を大きく引き出す授業の構築とシラバスを使った効果的な学習 ③ 生徒が主体となる学校生活の構築	A
	2 志高く、進路実現に取り組む生徒の育成	① 個人面談の重視と進学ガイダンスの充実 ② 生徒の可能性に挑戦する進学指導の実践	A
	3 スーパーサイエンスハイスクール事業の円滑な推進	① 中高一貫を活かした理数教育のカリキュラム開発 ② 自立的な学習集団の構築	B
	4 完成年度を迎えた中等教育学校の今後を見据えた校内体制の改善と充実	① 教育活動の重点化に向けた全職員の共通理解 ② 6年間の教育活動の体系化	A

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
1 総務部	主に広報的な分野	学校要覧の作成	A	・学校案内パンフレットのさらなる充実 ・学校説明会における説明事項・演出方法の工夫改善 ・PTA広報誌の発行は年2回に戻す。
		学校案内パンフレットや小学校用資料の作成	A	
	学校の経営方針、日々の活動等を外部に向けて効果的に情報発信する。	学校のホームページ用の資料の作成	A	
		学校説明会の企画・実施	A	
		入学式・卒業式の企画・実施	A	
		主にPTA的な分野	PTA本部役員会の開催	
	PTA活動の共通理解と会員同士の親睦を図る。	学年委員会・広報委員会・研修委員会・生徒指導委員会の開催	A	
		かえで祭・ウォークラリー・PTA研修会への参加協力の呼びかけ	A	
		支部会の開催	A	
		PTA連合会などの外部団体主催の研修会への参加	A	

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
2 教務部	「つくば」がもつ使命(ミッション)を全職員が共有し、さらなる生徒の学力向上をめざす。	生徒にわかりやすい(徹底しやすい)シラバスを作り、シラバスを参考にした学習計画の立案を促すことで、生徒の自主的な学習態度を育成する。	A	A	・インタラクティブボードの有効活用 ・6年間の学びが系統的にわかる「6年間の学びのロードマップ(仮称)」の内容の検討と完成
		新に取り入れた55分授業の展開を構築し、多様化した生徒に対応した授業(分かる授業・参加する授業・楽しい授業・実力がつく授業)の工夫改善を図る。	A		
		公開授業の奨励、積極的な職員研修(先進校視察等)、情報の交換・共有化を促す。	A		
	授業時間の確保と教務情報の提供に努める。	各教科間や、年次内の連携を強化し、授業交換を徹底させ、補填授業を充実させる。	A	A	
		チャイムからチャイムまでの授業の徹底を図る。	A		
		インタラクティブボード(情報表示装置)を有効に利用し教務情報を提供する。	B		
中等教育学校完成年度として、将来の見通しを持った校内体制の改善と強化を図る。	生徒や学校評議員からの学校評価システムを生かし、校内体制の見直しを図る。	A	A		
	各部・各教科・各学年の連携強化に努める。	A			
	完全移行完了にとともに、今後の学校運営がスムーズに推進できるような校内体制の改善と強化を図る。	A			
3-1 企画研究部	並木メソッド 1, 2年次の探究基礎活動の充実を図る。また、一人一研の実施方法を確立し学校全体で取り組む。	並木メソッド(総合的な学習の時間における探究活動とキャリア教育)を以下の方法で推進していく。 ・1, 2年次はグループ研究の形をとり、情報収集・情報加工・プレゼンテーションの方法を学ぶ。3年次前期は学年単位で探究活動の基礎を学ぶ。3年次後期から5年次前期は、ゼミに所属し、1つの研究テーマを決めて探究活動を行う。(一人一研)1つのゼミには複数年次の生徒が在籍し、互いに生い会う。5年次夏に集大成として研究発表を行う。	B	B	・課題研究の内容向上(講習会の実施など) ・学年との綿密な連携の強化
		スーパーサイエンスハイスクール(SSH)SSH指定2年目として地域に認められる活動を実施する。	理数系教育のカリキュラム開発・研究の充実 自己組織化・進化した学習集団の構築に関する研究の充実 SSHの評価についての研究 SSHとしての広報活動の充実 地域の大学、研究所、他のSSH校との連携		
	国際理解教育 国際理解教育・国際交流など特色ある学校づくりの取組	国際理解教育の充実 SSH事業とリンクを指せた海外研修内容の充実、JICA等外部機関にも協力を依頼して、講演会・国際交流会・異文化理解講座など、各学年で取り組めるイベントの提示する。 例:ブリティッシュヒルズ語学研修、ニュージーランド語学研修、サイエンスダイアログ、アイチャーム、校内でのディベート実施など。	A	B	・イベントの内容・実施方法や対象学年の検討 ・ユネスコスクール事業の検討
		ユネスコスクール事業のための研究と開発を行うための事業計画をSSH担当とも協力して行う。 ・事業の実施においては、全職員の協力のもと推進する。	B		

評価基準 達成状況 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
3-2 企画 研究部	図書メディア 1, 学習・情報センター 図書センターとして機能せる。 2, 計画的利用を推進する。 3, 生徒の主体的, 意欲的学習活動や読書活動を援助する。	情報発信基地として, SSHコーナー, 並木メソッドコーナー, 国際教育コーナー, 読書コーナーの設置。展示の充実	B	B	・「コーナー」企画のさらなる充実 ・学校図書館活用教育の推進(授業との連携など) ・メディア・リテラシー教育の徹底
		授業, 昼休み, 放課後の利用方法の工夫	B		
		魅力的な図書の選定。委員会活動の徹底と充実。書架の整理・整頓。図書館便りを通じた読書活動の啓発	B		
4-1 学校 生活部	基本的生活習慣を育成し, 他人との協調性を養い, 自己実現を目指す。	全職員の共通指導	B	B	・中等教育学校における校則及び内規を継続して検討していく。 ・交通安全指導を継続的に実施する。交通事故未然防止の方策を学校全体で検討していく。 ・マナーアップ運動を年2回盛大に実施する。 ・朝の「あいさつ運動」を継続して実施していく。 ・部活動精選に向けて今後も継続的に審議, 検証を行う。 ・精神的に不安定な生徒に対してSCと家庭との連携を密にし, 早期対応と対策の徹底をはかる。
		自主的に, 挨拶をする・服装を正す・時間を守る, が出来るようにする。	B		
		マナーアップ活動を通して, 校則を遵守する態度の育成	A		
	保護者・関係諸機関との連携を密にし, 問題行動の未然防止を目指す。	保護者との連携・協力	B	A	
		各中学校・警察等の関係諸機関との連携・協力	A		
		生徒事故の未然防止	A		
	安全教育の推進を図り, 自己防衛意識・自己管理の育成を目指す。	登下校時の立哨指導・巡回指導の実施	A	A	
		交通安全教育の徹底	B		
		自転車点検の実施	A		
	心の問題を抱えている生徒の早期発見と早期対応	欠席調べをして休みがちな生徒を把握する。	A	B	
		週に1度の部会を持ち, 情報交換を密にし, チーム支援の充実を図る。	B		
		校内研修会を実施し, 不登校マニュアルや相談室便りを発行する。	B		
	年次・保護者との連携強化	相談部の中に学年担当を決め, 学年会の生徒動向の情報を共有する。	A	A	
		生徒へのアプローチについて教育相談的視点からのアドバイスをする。	A		
		保護者との連携を密にする。また場合によっては医療機関等の紹介をする。	B		
スクールカウンセラー(SC)の活用	カウンセリングを受ける生徒に対して学校生活の中で支援する。	A	A		
	カウンセリングにおいて, SCと担任等の間の連絡調整を支援する。	A			
部活動の活発化	中等前期・後期課程の生徒を含めた部活動の活動方法を, 前年度に引き続き模索する。	A	A		
	部活動における効率的な活動を推進し, 個の育成と集団のレベルアップを図る。	A			
	部顧問の適切な配置を考え, 学校全体としての指導体制をより充実させる。	B			
主体性のある生徒会活動の推進	生徒会役員が, 主体性を持って生徒会活動を進められるようにする。	B	B		
	中等前期・後期課程の生徒を含めた生徒会活動のあり方を, 前年度に引き続き模索する。	A			
	生徒会役員選挙に多くの候補者が立候補するよう, 生徒の意識を高揚させる。	B			

評価基準 達成状況 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
4-2 学校生活部	学校行事の活性化	かえで祭の実行委員を増やし、生徒による企画・運営力の向上をめざす。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中等教育学校としての部活動の在り方活動方法の検討を精選を含め取り組んでいく。 ・より生徒主体の生徒会活動の推進 ・縦割り班による清掃・学校行事への取り組みを計画、検討していく。 ・避難訓練を含め災害時の職員の対応の周知徹底をはかる。
		中等前期・後期課程の生徒が一体化したかえで祭を作り出す。	A		
		中等前期・後期課程の生徒が同日開催となるスポーツデーを成功に導く。	A		
	生徒の健康・安全・健康教育の推進に努める。	健康診断は校医と相談し、合理的且つ円滑に行う。	A	A	
		健康診断の結果、要治療者については早期治療を徹底する。	A		
		日常的な保健室利用生徒について、担任・保護者との緊密な連携をはかる。	A		
		校内の各組織と相談・連携し、性・薬物等の講話を年1回は実施する。	A		
		担任・教育相談室と連携を深め、心のケアを重視する。	B		
	校舎内の美化と安全に努める。	委員会活動の活性化を図る。	B	A	
		清掃時間には可能な限り先生方に監督についてもらう。	A		
		ワックスがけを年2回実施する。	A		
		危険箇所の点検を行ない、改善に努力する。	B		
災害時等の対応マニュアルの見直しを行い、全職員に周知徹底する。		B			
5 学習進路部	適切な進路情報の提供	進路だよりの発行により生徒・保護者に情報を提供	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの流れを検証・継承しながら6年間を見据えた並木中等独自のキャリア教育体制をさらに発展させる。
		模試等の結果分析により学習到達状況の共有を図る。	A		
		進路ガイダンスの実施により生徒への情報提供と啓発を図る。	A		
		教師向け研修会の実施により共通理解および指導力向上を目指す。	A		
	進路計画の作成	各種進路行事の企画・立案を行う。	A	A	
		模擬試験等の計画を行う。	A		
		土曜学習会の計画・調整を行う。	A		
		長期休業中課外の計画・調整を行う。	A		
	学習環境の整備	赤本等の充実を図る。	A	A	
		進路室の整備を行う。	A		
		いつでもどこでも勉強できる雰囲気作りを促進する。	B		
	6 給食	正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身につけ、食に感謝し、楽しく食事ができるようにする。	全職員の共通理解のもと、安全と食育指導上、適切な指示をしながら給食指導を行う。	B	
給食係や給食委員会による常時活動の活性化を図り、給食の円滑な配膳や片付けを行えるようにする。			A		
職員も一緒に給食を食べながら、適宜、食事のマナーの指導、栄養や食文化の理解、望ましい人間関係の育成を図る。			A		

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
7 P C システム	IT環境を活用した校務の効率化	IT活用のための機器の導入と利用普及	B	B	・職員室内のLANの調子が悪いとき数回があったが、解決することができた。原因はハブにあるものがほとんどだったので、ハブの交換が必要かも知れない。
		校内サーバーの活用及びデータの共有	A		
		成績処理システムの導入及び周知	B		
	IT及び視聴覚環境の整備	ハードウェアの整備	B	B	
		校内ネットワーク(LAN)の整備	A		
		ソフトウェアの整備	A		
		PC室ならびに視聴覚室の整備(視聴覚機器など)	A		
	IT環境の安全な運用	ネットワークの安定的な運用	B	B	
		セキュリティの向上と迅速な対応	B		
		個人情報保護	A		
情報倫理の確立		B			
8 事務部	適正な予算執行に努める。	教科内で、各学年で教科担当者が行っている数学・理科の学力強化策の共通理解を図り、より効果的なものに改善していく。	B	B	・教員からの予算要求に対しては、概ね希望に添った予算執行ができています。
		意欲を喚起するために実施している数学・理科の企画への積極的な参加を促すようPRに務める。	C		
	施設設備の管理保全に努める。	生徒が安全に教育を受けられるよう、日常の点検を怠らない。	C	B	
		放送設備の破損や危険個所が発見された場合は、早急に対処する。	A		
	窓口や電話の迅速な対応に努める。	窓口対応については、親切に丁寧な対応に心がける。	A	A	
		電話の取り次ぎは、迅速に行う。	A		

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
9 1年次	中等生としての規律ある基本的生活習慣の育成(生活指導) ⇒ 総合的に成熟した人格者の育成を目指し、ルールを遵守し自制・自律のできる生徒を育てる。	校内や登下校時において、学年職員全員による挨拶指導の徹底とよりよい人間関係づくりに努める。	B	B	・規範意識 ・社会の中の一員の自覚 ・自学習慣の確立
		生徒個人、生徒相互による規範意識とモラルの高揚を図る。	B		
		ルールを守った学校生活の意義を理解させ、服装指導による中等生の誇りを自覚させる。	A		
		遅刻カードや5分前行動の奨励を通して、時間の大切さを自覚させ、事後指導の徹底を図る。	B		
	学習の習慣化と基礎学力の育成(学習指導) ⇒ 日々の授業で学んだことを基盤として、さらなる向上を目指した発展学習に積極的に励み、豊かな知識と確かな学力を身につけさせる。	基礎基本の習得とともに、基本的な学習習慣(基本的な躰け)を身につけさせ、自ら学ぼうとする態度を育てる。	B	A	・「やらされる学習」から「やる学習」へ ・一研の醸成 ・新聞活用能力の育成
		毎日の学習記録表による家庭学習の習慣化を図る。	B		
		単元末テスト・定期テスト・課外(補習)等の実施による学力の向上とボトムアップを目指す。	A		
		総合的な学習における、知識の活用能力の育成を目指し、課題解決能力を高める。	A		
	自己理解と進路意識の高揚(進路指導) ⇒ 自分自身を客観的に見つめ、自己の適性を見極めるとともに、将来の職業に対する興味・関心を持たせる。	校外学習・進路講演会等による進路意識の覚醒と高揚を図る。	B	B	・Q-U(学級生活満足度尺度)等を活用した学級集団の理解 ・面談時間の確保
		適性検査等の実施による自己理解の促進を図る。	B		
		総合的な学習の時間を中心に新聞記事を活用したり、追究活動を行ったりすることを通して社会観・職業観の育成を図る。	B		
	(その他) 家庭と連携を密にし、充実した中等教育学校生活を送らせる。	部活動や生徒会活動への参加の推進	B	A	・学校情報の可能な限りの開示
		学校行事への積極的参加を促進	A		
		保護者との綿密な連絡	A		
		面談等を活用して、将来について生徒に慎重に考えさせる。	B		

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
10 2年次	中等生としての規律ある基本的生活習慣の育成(生活指導) ⇒ 総合的に成熟した人格者の育成を目指し、ルールを遵守し自制・自律のできる生徒を育てる。	校内や登下校時における学年職員全員による挨拶指導の徹底及びよりよい人間関係づくりに努める。	A	B	・行事などクラスで協力して盛り上がる ことができる。 その反面、けじめ がつけられないと ころもあるので、 継続指導が必要で ある。 ・情報モラルの徹底 ・家庭学習の習慣化 を図る。 ・学習定着度の二極 化が進んできいて いる。ボトムアップ を図ると共に、上 位者をさらに伸ば す取り組みが必要 である。 ・並木メソッドでの キャリア学習は、 今後も進路意識の 高揚を図るため、 次年度からもスパ イラルに指導して いくことが重要で ある。
		生徒個人、生徒相互による規範意識とモラルの高揚を図る。	B		
		学年・学級によるルールを守った学校生活の意義の理解と服装指導による中等生の誇りを自覚させる。	B		
		遅刻カードの導入と家庭との連携を図った事後指導の徹底を図る。	A		
		5分前行動を奨励しチャイム前授業準備の徹底を図る。	B		
	学習の習慣化と基礎学力の育成(学習指導) ⇒ 日々の授業で学んだことを基盤として、さらなる向上を目指した発展学習に積極的に励み、豊かな知識と確かな学力を身につけさせる。	基礎・基本の習得とともに、学習の仕方を理解させ、自ら進んで学ぼうとする態度を育てる。	B	B	
		手帳の活用を通して、時間管理能力の向上を図り、毎日の家庭学習の習慣化の意識づけを継続する。	B		
		教科指導により、課題等の提出による予習・復習の習慣化を図る。	B		
		単元末テスト・定期テスト・課外(補習)等の実施による学力の向上とボトムアップを目指す。	B		
		総合的な学習の時間(並木メソッド)における、キャリア学習・探究活動の深化を目指す。	B		
自己理解と進路意識の高揚(進路指導) ⇒ 自分自身を客観的に見つめ、自己の適性を見極めるとともに、将来の職業に対する興味・関心を持たせる。	単元全体を通して、基礎から発展へと広がりのある授業を展開する。 例) 教科の発展としての関連施設の見学など	A	B		
	校外学習・講演会等による進路意識の高揚を図る。	B			
	職業に関する学習(職業の多様性の理解・職業観の育成・自己理解の促進)、職場見学、校外学習等による進路意識の高揚を図る。	B			
	学活、総合的な学習の時間を利用した社会観・職業観・人生観の育成を目指す。 面談等を活用して、将来について生徒に慎重に考えさせる。	B			
(その他) 充実した中等教育学校生活を送らせる。	部活動への参加の推進	A	A		
	生徒会活動への参加の推進	B			
	学校行事への積極的参加を促進	A			

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
3年次	1 1 中等生としての規律ある基本的生活習慣の育成(生活指導) ⇒ 総合的に成熟した人格者の育成を目指し、ルールを遵守し自制・自律のできる生徒を育てる。	校内や登下校時における挨拶指導の徹底とよりよい人間関係づくりを行う。	B	B	・挨拶の徹底や登下校の交通マナーの指導
		ルールを守った学校生活の意義の理解と服装指導による中等生の誇りを自覚させる。	B		
		遅刻カードの活用と家庭との連携を図った事後指導・生活指導の徹底を図る。	B		
		5分前行動を奨励しチャイム前授業準備の徹底を図る。	B		
		生徒一人一人の自制・自律の精神と愛校心を育てるために、学年生徒会を組織して、生徒の自治的活動を支援する。	B		
	学習の習慣化と基礎学力の育成(学習指導) ⇒ 日々の授業で学んだことを基盤として、さらなる向上を目指した発展学習に積極的に励み、豊かな知識と確かな学力を身につけさせる。	授業での学習の仕方を理解させ、自ら進んで学ぼうとする態度を育てる。	B	A	・家庭学習時間の習慣づけと成績下位層の生徒への指導の徹底、また上位層へは応用力の強化を図りたい。
		基礎基本の確実な習得とともに、応用・発展、深化へと広がりのある授業を展開する。	A		
		家庭学習の習慣化を図るための指導の工夫をする。	B		
		単元末テスト・定期テスト・課外(補習)等の実施による学力の向上を目指す。	A		
		単元全体を通して、基礎から発展へと広がりのある授業を展開する。	A		
		各種講演会や模試の実施・一人一研究により、自己表現力や記述力の向上を図る。	A		
		定期テスト・実力テスト等の実施による学力の向上を目指す。	B		
	総合的な学習における、知識の活用能力の育成を目指し、課題解決能力を高める。	A			
	自己理解と進路意識の高揚(進路指導) ⇒ 自分自身を客観的に見つめ、自己の適性を見極めるとともに、将来の職業に対する興味・関心を持たせる。	大学・学部学科調べやマイフューチャーセミナーによる進路意識の覚醒	B	B	・進路指導関連の行事と、キャリア教育とを絡めて計画を策定し、推進していきたい。
		大学見学・校外学習等による進路意識の高揚	B		
		学活、総合的な学習の時間を利用した社会観・職業観の育成	B		
		面談等を活用して、将来について生徒に慎重に考えさせる。	B		
		国内修学旅行を通して日本の文化伝統への理解を深め、さらに国際社会での情報発信能力の育成を図る。	A		
(その他) 充実した中等教育学校生活を送らせる。	部活動への参加の推進	B	B	・並木中等生としてのプライドを持たせたい。	
	生徒会活動への参加の推進	B			
	学校行事への積極的参加を促進	B			

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
4年次	1 2 中等生としての規律ある基本的生活習慣の育成(生活指導) ⇒ 総合的に成熟した人格者の育成を目指し、ルールを遵守し自制・自律のできる生徒を育てる。	校内や登下校時における挨拶指導の徹底とよりよい人間関係づくりを行う。	B	B	・ 発展期の2年間を踏まえ、先輩の自覚を持って生活習慣の手本を後輩に示す。
		ルールを守った学校生活の意義の理解と服装指導による中等生の誇りを自覚させる。	C		
		遅刻をさせない指導の徹底のために、家庭との連携を図る。	A		
		家庭との連携を密にして、問題の発生を未然に防ぐ生活指導を徹底する。	A		
		5分前行動を奨励しチャイム前授業準備の徹底を図る。	B		
		生徒一人一人の自制・自律の精神と愛校心を育てるために、生徒の自治的活動を支援する。	B		
	学習の習慣化と基礎学力の育成(学習指導) ⇒ 日々の授業で学んだことを基盤として、さらなる向上を目指した発展学習に積極的に励み、豊かな知識を基盤にした確かな学力を身につけさせる。	予習、授業、復習のサイクルを理解させ、自ら進んで学ぼうとする態度を育てる。	B	A	・ 学力差の拡大とともに低学力を憂う生徒への補講指導の徹底と、上位層へのモチベーション維持向上の示唆を図る。
		基礎基本の確実な習得とともに、応用・発展、深化へと広がりのある授業を展開する。	A		
		生活記録表の提出による家庭学習の習慣化を図る。	B		
		週末課題による家庭学習の充実と習慣化を図る。	A		
		到達度テストや課外・補習授業による学力の向上を目指す。	A		
		小論文講演会や模試の実施・一人一研により自己表現力や小論文等の記述力の向上を図る。	B		
	自己理解と進路意識の高揚(進路指導) ⇒ 自分自身を客観的に見つめ、自己の適性を見極めるとともに、将来の職業に対する興味・関心を持たせる。	適性検査等の実施による自己理解の促進を図る。	B	B	・ 一人一研究と将来の進路意識との関連から、進路選択の具体的道筋を見いださせる。
		大学・学部学科調べやマイフューチャーセミナーによる進路意識の育成・向上を図る。	B		
		一人一研・大学出前授業・校外学習等による進路意識の高揚を目指す。	A		
		LHR、総合的な学習の時間を利用した社会観・職業観・倫理観などを高める。	B		
	(その他) 充実した中等教育学校生活を送らせる。	面談等を活用して、将来について生徒に慎重かつ主体的に考えさせる。	B	A	・ 率先して学校行事に参加することで企画力の向上を図る。
		継続した部活動への参加の推進を図る。	B		
		生徒会活動に対しての参加を推進する。	A		
		学校行事への積極的参加を促進する。	A		

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
5 年次	中等生としての規律ある基本的生活習慣の育成(生活指導) ⇒ 総合的に成熟した人格者の育成を目指し、ルールを遵守し自制・自律のできる生徒を育てる。	校内や登下校時における挨拶指導の徹底とよりよい人間関係づくりを行う。	B	B	・ 継続して挨拶指導を行う。 ・ 遅刻に対し、もっと時間を意識した生活を送らせる。
		ルールを守った学校生活の意義の理解と服装指導による中等生の誇りを自覚させる。	A		
		遅刻カードの導入と家庭との連携を図った事後指導の徹底を図る。	B		
		家庭との連携を図った生活指導を徹底する。	B		
		5分前行動を奨励しチャイム前授業準備の徹底を図る。	A		
		生徒一人一人の自制・自律の精神と愛校心を育てるために、生徒の自治的活動を支援する。	A		
	学習の習慣化と基礎学力の育成(学習指導) ⇒ 日々の授業で学んだことを基盤として、さらなる向上を目指した発展学習に積極的に励み、豊かな知識と確かな学力を身につけさせる。	授業での学習の仕方を理解させ、自ら進んで学ぼうとする態度を育てる。	A	B	・ 学習記録を常に意識させ時間を有効に使った学習法を確立させる。
		基礎基本の確実な習得とともに、応用・発展、深化へと広がりのある授業を展開する。	A		
		ウィークリースタディーレコードの提出による家庭学習の習慣化	B		
		週末課題による家庭学習の習慣化	B		
		単元末テストや課外授業による学力の向上	A		
		小論文講演会や模試の実施・ひとり一研により自己表現力や小論文等の記述力の向上	A		
	自己理解と進路意識の高揚(進路指導) ⇒ 自分自身を客観的に見つめ、自己の適性を見極めるとともに、将来の職業に対する興味・関心を持たせる。	適性検査等の実施による自己理解の促進	B	A	・ 引き続き、定期的に進路意識の高揚が図れるように進路別に細かな指導を展開する。
		志望校大学・学部学科調べによる進路意識の育成	A		
		ひとり一研・大学出前授業・校外学習等による進路意識の高揚	A		
		学活、総合的な学習の時間を利用した社会観・職業観の育成	A		
	(その他) 充実した中等教育学校生活を送らせる。	面談等を活用して、将来について生徒に慎重に考えさせる。	A	B	・ 6年次まで部活動・生徒会活動をやりと遂げさせる。
		部活動への参加の推進	B		
		生徒会活動への参加の推進	B		
			学校行事への積極的参加を促進	A	

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
6年次	中等生としての規律ある基本的な生活習慣の育成(生活指導) ⇒ 総合的に成熟した人格者の育成を目指し、ルールを遵守し自制・自律のできる生徒を育てる。	校内や登下校時における挨拶指導の徹底とよりよい人間関係づくりを行う。	B	B	・定期的な校則の確認 ・共通理解をはかり全員で気づいた者がその場で指導
		ルールを守った学校生活の意義の理解と服装指導による中等生の誇りを自覚させる。	A		
		遅刻カードの導入と家庭との連携を図った事後指導の徹底を図る。	C		
		家庭との連携を図った生活指導を徹底する。	A		
		5分前行動を奨励しチャイム前授業準備の徹底を図る。	A		
		生徒一人一人の自制・自律の精神と愛校心を育てるために、生徒の自治的活動を支援する。	B		
	基礎学力の定着と応用力の育成(学習指導) ⇒ 日々の授業で学んだことを基盤として、さらなる向上を目指した発展学習に積極的に励み、豊かな知識と確かな学力を身につけさせる。	授業での学習の仕方を理解させ、自ら進んで学ぼうとする態度を育てる。	A	A	・教科内の連携と情報の共有
		基礎基本の確実な習得とともに、応用・発展、深化へと広がりのある授業を展開する。	A		
		ウィークリースタディーレコードの提出による家庭学習の習慣化と自己管理	B		
		志望大学別の記述試験・論述試験対策	A		
		単元末テストや課外授業による学力の向上	A		
		小論文講演会や模試の実施により自己表現力や小論文等の記述力の向上	B		
		定期テスト・実力テスト等の実施による学力の向上を目指す。	A		
	総合的な学習における、知識の活用能力の育成を目指し、課題解決能力を高める。	A			
	進路意識の高揚と進路実現(進路指導) ⇒ 自分自身を客観的に見つめ、自己の適性を見極めるとともに、将来の職業に対する興味・関心を持たせる。	適性検査等の実施による自己理解の促進	A	A	・6年間を見通した指導
		志望校大学・学部学科調べによる進路意識の育成	A		
		学活、総合的な学習の時間を利用した社会観・職業観の育成	B		
		面談等を活用して、将来について生徒に慎重に考えさせる。	A		
	(その他) 充実した中等教育学校生活を送らせる。	部活動への参加の推進	B	A	・中等生としての誇りを持たせる。
		生徒会活動への参加の推進	A		
学校行事への積極的参加を促進		A			

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
国語科	基本的な学習習慣の定着	学習ガイダンスを重視し、学習の見通しをもたせ、計画的に学習しようとする態度を育てるとともに、予習・復習の学習習慣を身に付けさせる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年次ごとに何をどこまで学習するかより綿密な計画を立てる。 ・他校の視察をより積極的に行う。
		単元ごとに明確な到達目標を提示し、段階をおった授業計画と評価計画を提示する。	B		
	読解指導の深化	論理的文章・文学的文章の読解法について解説する中で、様々な文章についても読解できるようにする（「客観読み」の理解を図る。）。	A	B	
		生徒自らが、主体的に文章と対峙するような視点をもてる読解指導を展開する。	B		
	「書くこと」の指導の徹底	「読むこと」や「聞くこと」と関連させながら、ノート指導を基本とし、書くことを通して思考をまとめる方法を学ばせるようにする。	B	B	
		各年次に合わせた作文や小論文の指導を行い、自分の考えを十分に表現できるように添削指導を行う。	B		
	「聞く」態度の育成と、適切な話し方の指導	正しく内容を理解するために、状況に応じて「聞く」、「聴く」、「訊く」の3種類の「きく」を使い分けられる生徒を育てる。メモを活用した聞き方についても指導を行う。	A	A	
		場と内容に応じ、聞き手を意識した「話し方」を工夫しようとする態度を育てる。	A		
	研修会等を利用して、研鑽に励み、授業作りや指導法の向上を図る。	研修会等に積極的に参加して、授業作りの参考になる情報を得る。	A	B	
		年次進行に合わせた授業法の研究を行い、新たな指導法の構築を図る。	B		
他の中等教育学校の授業を積極的に参観し、指導法の参考とする。		C			
社会科	年間指導計画の作成	シラバスの作成と活用	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの見直し ・資料提示の工夫 ・中3公民時に現代社会を行う。（内容が同じ箇所があるため）
		単元目標の提示と達成	B		
	学力向上と定着のための指導	ITを活用した授業の実践	B	A	
		学習方法・学習形態の工夫と改善	A		
		学習指導及び方法の工夫	A		
		科目の特性に応じた課題の工夫	B		
	生徒の学習意欲を喚起する学習指導	小テストの実施とプリントの活用	A	B	
		家庭学習の充実	B		
		観点別評価の工夫	C		

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
17 数学科	基礎・基本の定着とともに応用力の養成を図る指導	生徒が考えればわかる，やれば解けると思えるように，授業展開や説明方法を工夫する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・主要教科ではあるが，校務分掌の仕事も多く，教員の負担が大きく感じる。 ・SSH事業への積極的な参加が必要かも知れない。
		定期的に課題を与え，家庭学習を充実させることで，基礎・基本の定着を図る。	B		
		生徒の学力に応じて学習内容を精選し，深化的・発展的な内容の学習も行う。	B		
	学習意欲を喚起する指導	課題や課題提示の工夫する。	B	A	
		数学的活動の充実を図る。	B		
	個に応じた指導	数学的コミュニケーションの充実を図る。	B	A	
		きめ細かな指導をするため，TT指導・習熟度別学習を工夫改善する。	A		
生徒の実態を把握し，個に応じた助言・指導が行えるようにする。		A			
	質問を受け入れる体制作り（放課後・休み時間の活用）をする。	B			
18 理科	年間指導計画の改善	地域素材や研究施設の活用を図り，観察・実験など直接体験を重視する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・後期課程の内容を各単元で発展的な内容として導入し興味・関心を高めたり，より深い理解を促したりしてきた。今後はそれらの内容を，学習の全体計画としてまとめていく。
		後期課程の学習内容を導入するにあたり，系統的に学習内容を検討し，実施する。	A		
		上記目標のため，シラバスの改善を行う。	B		
	学力の向上	科学に対する興味・関心を高める導入やICTの積極的活用，教材の工夫を行う。	A	A	
		分かる授業の工夫と展開を研究する。	A		
		ワークや到達度シートを活用し，基礎の徹底を図る。	B		
	科学的な見方や考え方を育成する指導の工夫改善	仮説を立てて観察・実験を行い，結果を分析したり，解釈したりする活動を行う。	A	B	
実感を伴った理解を図るために，実社会や実生活との関連を重視し，学んだことを生かす態度を態度を育てる。		B			
科学的な用語を使って，説明したり，記述したりする活動を取り入れる。		B			
19 英語科	総合的なコミュニケーション能力の育成	言語の使用場面を考え，4技能のバランスのとれた言語活動を実施する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・CAN DO リストを英語科として前期，後期まとめたものを作成し，そのリストを基にした授業構成を考えていきたい。 ・GTを活用する場面をさらに増やしたい。
		オーセンティックな物や視聴覚教材を取り入れた授業を展開する。	A		
		授業導入時や展開時における日常会話や音声表現活動（自己表現活動）を実施する。	A		
	ワークシート等の工夫を通じた言語学習における基礎基本の定着	ワークシート類の定期的な提出や評価と共に，効果的に生徒へフィードバックする。	A	A	
		辞書の活用を奨励し，語彙を増やすことを目的とした諸活動を実施する。	A		
	言語学習を通して異文化交流，異文化理解をしていく態度を育てる。	自己の学習状況を振り返り，積極的に授業に参加する態度を養う。	A	A	
		教科書だけでなく様々な補助資料を用いて異文化理解を進める。	A		
ALTとのコミュニケーション活動を通して，様々な考えに触れる機会を設ける。		A			
	ゲストティーチャーの活用や総合的な学習と連携した活動を実施する。	B			

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
20 芸術科 (音楽)	音楽活動の基礎的な能力を養う	実技を取り入れながら、具体的かつ、わかりやすい説明を行う。	A	B	・音楽を愛好する心情を育てるため、基礎的知識の定着を図るだけでなく表現活動や様々な音楽を鑑賞する機会を多く取り入れていきたい。
		反復練習を通し、基礎的な知識・技能を身につけ、表現活動の充実を図る。	B		
	幅広い表現活動の充実	歌唱・器楽それぞれの表現活動を多く取り入れる。	A	A	
		表現活動の形態、教材も工夫し、意欲的に表現できるように工夫する。	A		
	鑑賞教育の充実	様々な時代、国の音楽を鑑賞することでし、多くの音楽にふれ、音楽文化への興味・関心を高める。	A	B	
音楽の諸要素による変化や多様な表現に関心を持ち、音楽を多面的に理解できるようにする。		B			
21 芸術科 (美術)	基礎的な表現の能力を養う	基礎的な知識や技能を身につけ、表現活動を充実させる。	A	A	・表現の技術や知識に時間がかかり、鑑賞の機会が少なかったので充実させたい。
		わかりやすい授業をとおして興味関心を持たせる。	A		
	多様な表現活動の充実	発想を大切にそれと合った表現を工夫できる教材を選ぶ。	A	A	
		幅広い表現体験を積み、表現の楽しさや喜びを持たせる。	B		
	鑑賞活動の充実	時代や諸外国の文化をとおして自国文化の大切さを養う。	C	B	
幅広い表現を鑑賞することで自己の表現に生かす。		B			
22 保健 体育科	体力を高め、心身の調和的発達を図る。	授業及び体力テスト等への積極的参加姿勢の育成	A	B	・体力の低い生徒が多いため、体力の向上を図る必要がある。 ・個々の能力に応じた運動で、楽しめるルール作りをする。 ・現状通りの指導 ・3年次で高校保健が入ってくるので中高の内容の連携を図る。
		体づくり運動の効果的な実践	B		
		自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育てる。	C		
	運動を豊かに実践することができるようにする。	運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	A	A	
		幅広い基礎運動技能の修得	B		
		ルールの理解	A		
	スポーツマンシップの育成	規律ある行動	A	A	
		あいさつの励行	B		
		マナー、ルールの遵守	A		
	保健学習の充実	心身の発達と心の健康についての理解	A	A	
		健康と環境、障害の防止についての理解	B		
健康な生活と病気の予防についての理解		A			

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
技術・家庭科	生徒の学習意欲を高める学習指導	生徒の興味・関心に答える学習内容を工夫する。	B	・グループ活動と言語活動を両立できる教材について研究したい。	
		実験や実習を効果的に行い、興味を引き出すとともに、理解の定着を図る。	A		
		グループ活動を取り入れ、自主性や協調性を伸ばすとともに、楽しい授業の実施を工夫する。	A		
	科学的な理解と技術の習得	さまざまな事象を科学的にとらえる授業を展開する。	A		A
		社会の中での生活を主体的に行うための基本的な技術を身につける。	A		
		学習ノートを活用し、学習したことの定着を図る。	A		
	生活に生かす力の育成	長期休業等に、学んだことを実生活で実践したり、調べたりするための課題を出す。	B		B
		地域の活動などに積極的に参加し、実践する態度を育てる。	B		
		生活の場面で生徒が取り組めることを意識した授業を展開する。	A		
家庭科	生徒の学習意欲を喚起する学習指導	生徒の興味・関心に答えるとともに、知的好奇心を喚起する学習内容を工夫する	A	・知識を実践力につながる授業・実習について研究したい。	
		実験や実習を効果的に行い、体験的に学べるようにする	A		
		グループ活動を取り入れ、自主性や協調性を伸ばすとともに、楽しい授業の実施を工夫する	A		
	科学的な理解と技術の習得	生活を科学的にとらえる授業を展開する	A		A
		効果的な実習を行い、基本的な技術を習得する	A		
		資料集や学習ノートを活用し、学習内容の定着を図る	A		
	生活の場での実践力の育成	課題をみつけ改善できる実践力を身に着ける	B		B
		保育所訪問や地域の活動などの参加を促し、学んだことを生かす態度を育てる	A		
		生活者として、深い洞察とより良く生活を改善していこうとする視点を育む授業を展開する	A		
情報科	IT活用及びコミュニケーション能力の育成	実習の中で基本的なビジネス用ソフトウェアを利用する	A	・他との連携によって進路や行事が意味深いものになるように研究したい。	
		情報の検索、加工、発信という基本的なIT活用プロセスを扱う	A		
		グループワークや他とのコミュニケーションを重視した実習を行う	B		
	情報倫理の育成	知的財産権について、いろいろな場面で扱う	A		A
		情報倫理について、自分で判断できるように指導する	A		
		人と人との関係性を重視した指導を行う	B		
	他教科や中等教育学校との連携	進路決定のプロセスにITを活用できるようにする	B		B
		学校行事とリンクした実習を取り入れる	A		
		他教科や中等教育学校との連携をいろいろな場面で試みる	B		

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
26 道徳	望ましい生活態度を身につけ、互いの個性を尊重し、自主的・自律的な行動をしようとする態度を育てる。	24項目を計画的に扱うとともに、学級や学年の生徒の状況を把握し、生徒の実態に応じた題材を提示する。	B	A ・各学年で重点とする取り組みがある。お互いの取り組みの情報交換をして活性化を図る。
		クラスやグループ内で意見交換し、他者の考えを参考にしながら自分の考えを深めさせる。	A	
		授業で考えたことを、自分の今までの考え方や生活と比較し、これからの自分の生き方に反映できるようまとめる。	A	
27 学級活動	集団や社会の一員として望ましい人間関係を作りよりよい生活を築こうとする気持ちや自己を生かす力を養う。	シラバスの活用により、見通しを持って活動に取り組ませる。	B	B ・「見通しを持った活動」が課題である。学校、学年行事をふまえたシラバス活用の工夫を行っていく。
		校外学習の計画と生徒主体の活動の実践	B	
		生徒会活動や学校行事への積極的な取り組み	A	
		学級での一人一役の実践と工夫	B	
28-1 総合的な学習の時間	自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。	「地域再発見」というテーマで、かえで祭において、自分の住んでいる地域についてポスターセッション方式で発表することを通して、探究のスキルを育てる。(1年)	B	B ・上学年につながる研究の基礎の確立
		「ミニ研究」というテーマで、グループによる追究活動を行い、まとめ・発表をすることを通して、課題発見能力、情報収集・活用能力、課題解決能力を育てる。(1年)	B	
		「探究のスキル ～科学的な見方や考え方を身につけよう～」というテーマで、個人課題研究(一人一研)のための、課題発見能力、情報収集・活用能力、情報の再構成能力、課題解決能力などのスキルを学ぶ。(2年)	C	B ・個人課題研究のために、継続的にスキルを身につける必要がある。 ・系統的なキャリア学習の構築
		「フューチャー10 ～卒業後の10年を考える～」というテーマで、自己理解を深め、職業調べや職場見学を行うことを通して、職業の多様性を理解させ、職業観を育てる。また基礎期のまとめとして、卒業してから10年後の自分を見据えながら、これからの生き方の決意を固める。(2年)	B	
		「未来への変革～視野を拡げよう、考える力を深めよう～」というテーマで、一人一研究に取り組み、学ぶスキルの習得とともに、課題追究能力、課題解決能力を伸ばす。また、大学見学、進路講演会を中心とした進路学習において、個々の進路に対する視野の拡張を図る。(3年)	B	
「世界遺産を研究する」において、負の遺産としての戦争と平和、文化遺産としての歴史的建造物等について、多方向からの総合的な理解及び今後の課題の発見などの追究能力を育成する。(3年)	B	B ・前期課程から後期課程に向けての課題追及能力、課題解決能力のレベルアップ		

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
総合的な学習の時間	自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。	「自己を見つめて・社会を見つめて～夢に向かい取り組んでいくことで自分自身に元気を!!そして日本に元気を!!～」というテーマで、一人一研究に取り組み、学ぶスキルの習得とともに、課題追究能力、課題解決能力を伸ばす。(4年)	B	A	・一人一研究については、中間発表を終え、最終発表に向けて課題解決をしていく。
		マイフューチャーセミナーや大学出前授業、進路講演会を中心とした進路学習において、個々の進路に対する視野の拡張を図る。(4年)	A		
		「自己実現のために」というテーマで、一人一研究に取り組み、学ぶスキルの習得とともに、課題追究能力、課題解決能力を伸ばし、将来の自己実現の基礎とする。(5年)	A	A	・進路学習・一人一研究において培った力を、希望進路の実現へとつなげていく。
		大学出前授業や進路講演会を中心とした進路学習において、個々の進路に対する視野の拡張を図る。(5年)	A		
		センター過去問分析や大学別過去問分析などを通して「自己の進路実現」のための対策を図る。(6年)	A	A	・特になし
進路講演会や小論文講演会を中心とした進路学習において、個々の進路に対する視野の拡張を図り、進路実現を目指す。(6年)	B				

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

